

# 日中経済協会 次の50年に向けて



一般財団法人日中経済協会  
理事長

佐々木 伸彦

7

月6日から9日まで「中国自動運転考察ミッション」に  
団長として参加し、広州と深圳を訪問しました。昨年  
12月に実施した上海、蘇州、武漢でのミッションに続く第2弾  
であり、前回からのリピーターも含め35名が参加し、12カ所で  
試乗、視察、意見交換を実施してきました。今回は自動走行  
車で市中を走り、出発点に戻ってくる走行でしたが、今回は、「街  
でスマホからロボタクシーを呼んで自分で設定した目的地に行  
く」という企画にトライし、結果的にはこれが一番感動的でした。  
無人のタクシーが指定したとおり目前に現れ、信号を守り、自  
動車、歩行者などと調和を保ちながら目的地に向かって走る体  
験を全団員がすることができました。10分余りの走行で、初回  
割引もあり価格は日本円でわずか50円。実験段階とはいえ、レ  
ベル4の自動運転タクシーが市民生活に溶け込んでいることを  
実感できました。

自動運転のもう一つの目的であるレベル3の運転者補助機能  
もほぼ完成していることが実感できました。全ての責任は運転  
者が取ることを前提に、走行、車線変更、車庫入れなど全て  
自動で行われます。各社が500万円以上の多くの車種にこ  
の機能を搭載して販売し、中国の至るところで走行しています。  
広州空港到着後、市内まで高速道路を使って40分余りの行程を  
スムーズに何の不安もなく走行しました。

中国企業のイノベーションは凄まじいものがあります。世界で  
ビジネス展開をする当協会の会員の皆さまに、新技術の社会  
実装のスピードとスケールを実感してもらうことが重要だと思  
いますので、こうした機会をこれからも増やしていきたいと考え

ています。

また、世界的に競争力を有する中国の大企業やスタートアッ  
プから、世界市場で戦ってきた経験ではるか先を行く日本企業  
と交流したいという声が寄せられています。彼らの目的は日本  
市場への進出であったり、日中共同での東南アジア、欧米など第  
三国市場への進出であったり、様々です。また、日本企業の側  
からも同じような声が寄せられます。米中関係が厳しくなる中  
で、「どちらの陣営に属するか」という単純な議論ではなく中国  
企業との向き合い方を改めて問い直している日本企業が増えて  
いるように思います。3月と5月の理事会で、当協会が在日中  
国企業と日本企業の間の良い交流の場となるにはどうしたら良  
いか議論してきました。これを受けて現在、当協会と会員企業  
の若手職員を中心とした「検討委員会」で綿密に検討してもら  
っています。

この検討委員会では併せて、協会事業の棚卸の検討もお願い  
しています。協会が設立されて53年、日中両国の関係性は大き  
く変化しました。そして協会もこの歩みの中で、継続していく  
ものと形を変えるべきものについて議論する時が来たと思います。  
現在の協会事業が会員の期待とズレていないか、省くべき事業  
新たに取り組むべき事業はないかを検討してもらい実施に移すこ  
とによって、次の新しい50年を築いていきたいと思っています。

検討委員会に社員の方を派遣くださった各社に心からお礼申  
し上げるとともに、賛助会員各位には協会のあり方に引き続き  
忌憚のないご意見をお寄せくださいますよう、また今後とも変  
わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。